

## 絆 要 望 項 目 一 覧

### 平成25年度11月補正分

要望項目	左 に 対 す る 対 応 方 針 等
<p>1 鳥取県手話言語条例の制定に伴う支援について 鳥取県手話言語条例の制定に伴って、県民がいつでもどこでも手話が学べる場を作る等、体制強化や財政強化を行うこと。</p>	<p>県民の手話の学習機会拡大については、まずは9月補正予算で計上された県民向け手話講座の開催等の事業を着実に実施したい。来年度当初予算においては、こうした取組をさらに推進するため、手話通訳者・手話奉仕員の養成や手話サークルへの活動支援等の手話講座の講師を担える者の増加にも資する取組に力を入れることを検討したい。</p> <p>なお、11月補正予算では、県内の小中学校、高等学校及び特別支援学校の学校図書館へ手話を学ぶために必要な図書等を配布することを検討している。</p> <p>【11月補正】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手話で学ぶ教育環境整備事業 26,100千円</li> <li>・手話を学べる庁内環境整備事業 1,500千円</li> </ul>
<p>2 鳥取看護大学の支援について 鳥取看護大学の開学及び開学当初の運営が可能となるよう、その必要経費を精査し、必要かつ十分な支援を行うこと。</p>	<p>鳥取看護大学の設置経費を検証するために、県、倉吉市、藤田学院、倉吉商工会議所の参加による「鳥取看護大学設置経費等検討協議会」を平成25年10月17日に設置し、精査を行った結果、公的支援を行うのにふさわしい経費に補助対象経費を限定し、それについて県・市町が負担する方向で検討することでまとまった。</p> <p>この検討結果や看護師等の養成のあり方研究議員連盟の申し入れ等を踏まえ、大学設置に必要なかつ十分な支援を行うこととしたい。</p> <p>【11月補正】〔債務負担行為〕鳥取看護大学設置支援事業 792,981千円</p>
<p>3 重症心身障害児・者とその家族の支援について 重症心身障害児・者とその家族の精神的負担や疲れを短期間でも癒すレスパイト施設として、医療措置のできる短期入所施設やデイサービスをもっと増やすこと。 特に、県中部の医療機関は皆無で医療措置ができる短期入所施設は極めて少ない現状であるため、報酬単価のサポートや施設整備の支援を行いしっかりと環境整備を行うこと。</p>	<p>医療措置のできる短期入所施設やデイサービス事業所等の拡充に必要な施策について、平成26年度当初予算の中で検討する。</p>
<p>4 農作業中の事故防止について トラクターや草刈機による農作業中の事故については、大事故しか把握されていない。改めて、もっと実態を把握し、農繁期までにヒヤリ、ハットの経験を活かし事故減少に繋げる取り組みを実施すること。</p>	<p>平成25年5月に農業団体、農機具販売会社、農業共済、代表市町村、県で構成する「鳥取県農作業安全・盗難防止対策協議会」を設立し、関係者一体となった事故防止等の取組をスタートさせた。この協議会では、農作業事故の調査、原因の分析、対策の構築、農業者への啓発活動等を行うこととしており、これまでに、事故事例をもとに啓発資料等を作成し、ラジオCMやCATV等マスメディアを活用した啓発やパンフレットの配布等を行ってきたところである。</p> <p>今後も、生産現場に密着した活動を行う地域協議会等で事故把握に努めるとともに、各地域でリーダーとなって推進していただく方を集めた研修会や、JAの集落座談会で研修等を行うなど、事故減少に繋げる取組を実施する。</p>

要望項目	左に対する対応方針等
<p>5 「未来のパパママ育み事業」の継続について 性と生殖の健康を守る「いのちの出前教室」を推進していくため、引き続き15講座を行う経費について支援すること。また、思春期の問題に適切に対応する専門家を育成するため、引き続き研修等の経費を支援すること。</p>	<p>「未来のパパママ育み事業」は、中学・高校生を対象に、命の大切さや性・生殖について伝える出前講座で、助産師会に委託して実施しているところであり、当該出前講座（15講座）の開催及び専門家を育成するための研修の事業継続については、平成26年度当初予算の中で検討する。</p>
<p>6 「今から始める！いつかはパパママ事業」の継続について 就労・妊娠・出産・子育てを控えた世代が将来のライフプラン考え、描き、主体的・積極的に健康づくりに取り組んでいくため、引き続き講座開催等の経費を支援すること。</p>	<p>「今から始める！いつかはパパママ事業」は、20代～30代の若者を対象に、妊娠・出産・子育てを控えた世代がライフプランを考え、性や命の大切さについて学ぶ機会を提供する出前講座であり、当該出前講座の事業継続については、平成26年度当初予算の中で検討する。</p>
<p>7 祖父母が子育てに協力する仕組み作りについて 若い親の虐待等の増加が深刻な問題となっている中で、祖父母世代の子育て参加が見直されつつあるが、感覚の相違や関わり方の不安があり、十分に参加出来ていない。このため、祖父母の世代を対象とした講座を定期的実施する等の対策を講じること。</p>	<p>出産を決意するにあたって、子育て中に頼ることの出来る親等が身近にいることを考慮される方は多いことから、地域におられる祖父母世代の方々が入育に関わることは、地域の出生率や子育て力を高めるのに有効と考えられるため、祖父母世代の方を対象とした講座の開設について、平成26年度当初予算の中で検討してみたい。</p>
<p>8 母乳哺育の推進について 母乳は、清潔・簡便・栄養面でも心配がなく、母親の心の安定にもなり、親子の絆を深め、災害時にも重宝する。そこで、退院後最低1回は助産師による乳房ケア等を受けるための助成制度を創設すること。</p>	<p>母乳哺育における乳房ケアについては、各市町村において、母乳育児等に関する相談があった場合に、助産師や保健師が個別対応を行っているほか、出産した産婦人科及び乳房ケアを実施している助産所で支援を行っておられることから、現時点で県として助成制度の創設は考えていない。</p>
<p>9 民芸品等製造業に対する支援について 陶芸をはじめとした民芸品等製造業に後継者ができるよう、販路開拓や後継者育成の支援を行うこと。</p>	<p>県では、因州和紙、弓浜緋、倉吉緋、陶芸、竹工、クラフトなど伝統的な地場産業を「ふるさと産業」と位置づけて、事業者が実施する新商品開発、国内外での販路開拓、後継者育成の取組に対して補助制度を設けている。また、(一社)鳥取県物産協会に民芸品コーディネーターを配置し、民芸品等製造者と小売店等とのマッチングを図っているところであるが、関係者の意見を聞いて現行の制度に不都合があれば、制度の見直しを検討したい。</p> <p>&lt;平成24年度小売店とのマッチング実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取エエもん蔵（鳥取市）と扇山窯</li> <li>・中川酒造ショールーム（鳥取市）と牛ノ戸焼 など8件</li> </ul>
<p>10 県産食品への信頼向上について 県産食品への信頼を高めるべく、安全安心意識の高まりから必要性が増している食品加工業製品の品質や栄養表示等検査に対し、以下の支援を行うこと。</p>	<p>中小企業が新商品開発を行う場合には「鳥取県販経営革新支援事業」により検査機器等の導入を支援できる。</p> <p>また、食品の栄養成分等の分析検査は、(財)鳥取県保健事業団で行われているほか、企業が製品開発や改良等を行う場合には、支援の一環として(地独)鳥取県産業技術センター食品開発研究所で</p>

要望項目	左 に 対 す る 対 応 方 針 等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自社での検査機器導入への助成。</li> <li>・ 中部地区での分析検査機関の確保 (例えば食物栄養学科のある鳥取短大など)。</li> <li>・ 1社当たりの検査回数の増加に対応するとともに、農家の加工品製造や6次産業化等の小規模な事業体でも検査しやすくなるよう、検査手数料を引き下げる。</li> </ul>	<p>も行っているところであり、地域的な利便性の確保や検査手数料に負担感があることを、検査機関にお伝えするほか、状況を確認したい。</p> <p>(なお、鳥取県衛生環境研究所は、(財)鳥取保健事業団の検査の受付窓口にはなっていない。)</p>